



高商野球部
OB会だより

初出版記念特別版

保存板

部訓

1. 為せば成る
2. 毎日反省努力して精進せよ
3. 闘志を燃やせ
4. 親しき仲にも礼儀あり
5. 健康に留意せよ

部員心得十か条

1. 皆が高松商業高校の生徒であることを忘れずに学生たるの本分を守り、アマチュアの間を發揮せよ。
2. 一校を代表していることを忘れず、責任感に燃えよ。
3. 練習中は自分が一番下手であると思って努力し、試合では自分が一番上手であるとの信念を忘れるな。
4. 強敵を恐れず、弱敵を侮らず、試合の終わるまで諦めず、また油断をするな。
5. 練習場へは真っ先に、練習後は最後に引き揚げるようにせよ。
6. 器具の手入れに注意せよ。バットやグラブは勝敗を決する鍵であると知れ。
7. 新しい靴は試合に使用するな。負傷の原因となる。
8. 爪の切りかたは、長からず、短かからずにはほどよく保て。
9. よく眠り、よく食べるはよいが、程度のあることを忘れるな。
10. 審判員は絶対だが、神ではない。常に公平で、反抗することによりなんらの利益のないことを知れ。

高商野球部後援会の沿革

大正4年、朝日新聞社主催第一回四国大会の決勝戦で、高松中学(現高松高)に敗れた時、武田氏、綾田兄弟氏、牧野兄弟氏等が中心になり、高商野球部の強化を図って結成されたのが高松実業倶楽部。

これを母体として高商ファンを吸収し、技術面・資金面の協力を惜しまず後援を続け、大正13年のセンバツ第一回、大正14年・昭和2年の夏の全国優勝と黄金期をもたらした。戦後、昭和23年、漆原善雄先生が、坂出商業より母校に転勤してきて野球部長となってより、卒業生を中心とした野球部後援会の組織づくりに取り組んだ。

昭和29年夏の戦後初の甲子園出場、30年のセンバツ出場するに至り、この後援会の正式結成を見た。下記歴代後援会長のもと今日に至る。

歴代野球部後援会長

▶初代	岡野 倡三(讃岐薬品)	昭和30年～37年
▶二代	松岡 正雄(松岡木材店)	昭和37年～42年
▶三代	松村 芳文(高松商運)	昭和42年～57年
▶四代	池田伊三郎(池田酒造)	昭和57年～63年
▶五代	水野 高司(東邦建設)	昭和63年～平成7年
▶六代	齋藤 和良(高松青果)	平成7年～現在に至る

高松商業野球部歴代監督

辻 政太郎	石井健一郎	植村 正一	大塚 英一
横井 一甫	志賀 申二	遠山 茂	若宮 誠一
前川 昌三	中山 泰三	岡田 紀明	久保 政道
若宮 誠一	黒坂 季央	藤本 繁	岡田 紀明
松田 正和	谷 豊	浜松 勝之	宮武 学
久保 政道	後藤 慎也	黒坂 季央	長尾 健司

野球殿堂

野球殿堂は 日本野球の発展や隆盛に貢献された方々を表彰し、その功績を永遠にたたえるために1959年につくられました。

2009年までに殿堂入りした方は168人です。母校出身者は次の3名の方々です。

宮武 三郎 (1907年～1956年)

投打に活躍した学生野球のヒーロー。高商ではセンバツで準優勝投手、夏の選手権大会は優勝投手。慶應大学時代剛球投手であり、また重量打者として大活躍。長嶋選手が記録を作るまでは長年本塁打記録を保持していた。また投手としても39勝6敗と剛腕ぶりを示した。阪急でも活躍し、後年日本専売公社の野球部監督を務めた。1965年に母校出身者として初めて殿堂入り。

水原 茂 (1909年～1982年)

巨人軍第2期黄金時代の名監督。高商時代は投手、慶應時代は内野手として花形選手であり、投手としても14勝8敗と活躍する。対アメリカ大リーグ選抜チームを迎えての試合で、全日本軍に選ばれ対戦する。

巨人軍に入団し俊敏・強肩の名三塁手として最高殊勲選手を獲得するなど活躍した。昭和25年から巨人、東映、中日と監督を務め日本シリーズで通算5回の優勝を獲得した。1977年先進的な監督術や指導力が高く評価され殿堂入り。

牧野 茂 (1928年～1984年)

5年生の時、高商野球部から戦後名古屋に転居し愛知商(現瑞穂高)に編入し、戦後初の甲子園出場を果たす。明治大学野球部で俊足攻守の内野手として活躍、中日に入団。その後、解説者時代に巨人軍の川上監督に請われヘッドコーチとして日本一9連覇に貢献する。高度なチームプレーを日本プロ野球界に確立させた功績にて、殿堂入り。

プロ野球界で活躍したOB選手

氏名	入団年度	球団	氏名	入団年度	球団
宮武 三郎	1936	阪急	岡村 浩二	1961	阪急
井川喜代一	1949	東映	山口富士雄	1963	阪急
水原 茂	1936	巨人	島谷 金二	1969	中日
西村 正夫	1936	阪急	吉村 健二	1973	太平洋
矢野 楨雄	1937	金鯨	小坂 敏彦	1969	巨人
桑島 肇	1941	阪急	大北 敏博	1970	巨人
楠 拡応	1938	巨人	細川 安雄	1970	阪急
多田文久三	1941	巨人	植上 健治	1973	阪神
藤井 道夫	1950	阪急	熊田 智行	1985	ヤクルト
三好 主	1942	巨人	大森 剛	1989	巨人
明石 武	1942	巨人	神田 義英	2003	ロッテ
平田 守	1954	阪急	新田 玄気	2008	ヤクルト
牧野 茂	1952	中日	松永 昂大	2012	ロッテ
中村 耕三	1955	巨人	監督試合出場 水原 茂 2782 試合 西村 正夫 721 試合		
田中 尊	1955	南海			
関森 正治	1955	近鉄	※牧野茂は5年時に愛知商へ転校		
藤田 正一	1962	近鉄			
石川 陽造	1962	東映			

高商野球部の歴史

香川県立高松商業高等学校は、明治33年(1900年)創立。野球部は明治42年(1909年)に創部、その輝かしい戦績を残している。春の選抜大会は、決勝に4度進み、第1回(大正13年)大会と第32回(昭和35年)大会で全国優勝、夏の選手権大会では、第11回(大正14年)大会と第13回(昭和2年)大会に全国制覇を果たしている。

また、国民体育大会では、第13回(昭和33年)大会で優勝している。これまで44回(春25回、夏19回)の甲子園出場で、ベスト8以上が21回を数え、通算54勝を挙げている。

以上の輝かしい戦績、全国優勝を現ストッキングの色(白・赤・黄)に表して、6度目の全国優勝を目指して練習に励んでいる。



甲子園 勝敗ランキング

選抜高校野球大会					全国高等学校野球選手権大会				
順位	高校名	都道府県	勝敗	標準優劣	順位	高校名	都道府県	勝敗	標準優劣
1	中京大中京	愛知	55勝26敗	445	1	中京大中京	愛知	76勝19敗	706
2	東邦	愛知	50勝23敗1分	423	2	松山商	愛媛	60勝21敗1分	534
3	PL学園	大阪	48勝17敗	316	3	龍谷大平安	京都	59勝30敗	341
4	岐阜商	岐阜	46勝24敗1分	334	4	PL学園	大阪	48勝13敗	430
5	広陵	広島	37勝20敗1分	333	5	天理	奈良	45勝24敗	202
5	龍谷大平安	京都	37勝37敗1分	104	6	広島商	広島	43勝15敗	611
7	大体大浪商	大阪	32勝17敗2分	231	7	岐阜商	岐阜	39勝27敗	133
7	高松商	香川	32勝23敗	222	7	早稲田実業	東京	39勝27敗1分	122
9	報徳学園	兵庫	29勝18敗	204	9	高知商	高知	36勝22敗	013
10	日大三	東京	26勝17敗	131	10	智弁和歌山	和歌山	35勝18敗	212
10	天理	奈良	26勝21敗	101	11	横浜	神奈川	32勝13敗	203
12	箕島	和歌山	24勝6敗	302	11	桐蔭	和歌山	32勝18敗1分	234
12	明德義塾	高知	24勝15敗	002	13	帝京	東京	30勝10敗	202
14	横浜	神奈川	23勝12敗	310	14	大阪桐蔭	大阪	29勝4敗	401
14	高知商	高知	23勝13敗	120	14	明德義塾	高知	29勝15敗	102
16	池田	徳島	22勝6敗	212	14	熊本工	熊本	29勝20敗	031
16	早稲田実業	東京	22勝19敗1分	111	14	広陵	広島	29勝21敗	030
18	智弁和歌山	和歌山	21勝10敗	120	18	東北	宮城	28勝21敗	011
18	帝京	東京	21勝13敗	121	19	報徳学園	兵庫	26勝13敗	102
20	東海大相模	神奈川	20勝7敗	220	20	銚子商	千葉	25勝11敗	110
20	松山商	愛媛	20勝14敗	212	20	常総学院	茨城	25勝14敗	111
20	徳島商	徳島	20勝18敗	103	20	仙台育英	宮城	25勝24敗	010
23	上宮	大阪	19勝7敗	112	20	松商学園	長野	25勝34敗	113
23	広島商	広島	19勝20敗	111	24	日大三	東京	23勝14敗	200
25	高知	高知	18勝16敗	111	24	樟南	鹿児島	23勝18敗	011
26	浦和学院	埼玉	17勝8敗	101	24	鳥取	鳥取	23勝23敗	004
27	市神港	兵庫	16勝6敗	201	27	高松商	香川	22勝17敗	201
27	愛工大名電	愛知	16勝8敗	110	27	静岡	静岡	22勝22敗	120
27	桐生	群馬	16勝12敗	022	29	徳島商	徳島	21勝23敗1分	011
27	熊本工	熊本	16勝20敗	004	30	池田	徳島	20勝8敗	111
					30	沖縄水産	沖縄	20勝9敗	021
					30	今治	西愛媛	20勝11敗	003
					30	東洋大姫路	兵庫	20勝11敗	101
					30	智弁学園	奈良	20勝17敗	001
					35	習志野	千葉	19勝6敗	200
					35	作新学院	栃木	19勝9敗	102
					35	宇部	山口	19勝12敗	011
					35	福井	福井	19勝22敗	001
					39	八戸学院光星	青森	18勝7敗	021
					39	東海大甲府	山梨	18勝12敗	003
					39	星稜	石川	18勝17敗	012
					42	育英	兵庫	17勝5敗	112
					42	静岡商	静岡	17勝9敗	020
					42	大体大浪商	大阪	17勝11敗	201
					42	東邦	愛知	17勝16敗	011
					42	鹿児島実業	鹿児島	17勝17敗	002
					42	北海	北海道	17勝35敗	001
					48	興南	沖縄	16勝8敗	101
					48	津久見	大分	16勝11敗	100
					48	高知	高知	16勝12敗	100
					51	横浜商	神奈川	15勝7敗	011
					51	下関	山口	15勝8敗	021
					51	小倉	福岡	15勝8敗	201

【ストッキングの線色】

- 白色→夏の選手権大会優勝…2本
- 赤色→春の選抜大会優勝……2本
- 黄色→国民体育大会優勝……1本



- ▶明治42年
高松市立商業高校に野球部誕生
- ▶大正13年
第1回 全国中等学校選抜野球大会 優勝
- ▶大正14年
第2回 全国中等学校選抜野球大会 準優勝
第11回 全国中等学校野球大会 優勝
- ▶昭和2年
第13回 全国中等学校野球大会 優勝
- ▶昭和35年
第32回 全国選抜高等学校野球大会 優勝
- ▶昭和36年
第33回 全国選抜高等学校野球大会 準優勝

監督実績	出場回数	試合数	優勝	準優勝
辻政太郎	2	3		
石井健一郎	1	3	1	
植村正一	4	16	2	1
大塚英一	7	15		1
若宮誠一	12	26	1	1
久保正道	10	17		

高松商業高校 野球史

選抜高校野球大会			全国高等学校野球選手権大会			
年度	回数	成績	監督名	回数	成績	監督名
大5年				2回	1回戦 関学中 1-2	辻政太郎
					2回戦 慶應普通部 9-3	
大6年				3回	1回戦 盛岡中 5-1	辻政太郎
大13年	1回	1回戦 和歌山中 6-7	石井健一郎			
		準決勝 愛知一中 1-7	同		夏 高松中学に20-0で負け	
		優勝 決勝戦 早稲田実業 0-2	同			
大14年	2回	1回戦 市岡中 0-10	植村正一	11回	2回戦 東山中 0-14	植村正一
		2回戦 和歌山中 5-3	同		3回戦 静岡中 1-4	同
		準決勝 愛知一中 1-3	同		準決勝 大連商 2-9	同
		準優勝 決勝戦 松山商業 3-2	同	優勝	決勝戦 早稲田実業 3-5	同
大15年	3回	1回戦 八尾中 1-8	同			
		2回戦 松本中 5-2	同		夏 松山中に2-1で負け	
昭2年	4回	1回戦 松本中 5-3	同	13回	1回戦 第一神港 1-8	植村正一
					2回戦 北野中学 1-8	同
					3回戦 福岡中 0-1	同
					準決勝 愛知商 0-1	同
					優勝 決勝戦 広陵中 1-5	同
昭3年	5回	1回戦 市岡中 0-2	大塚英一	14回		
		2回戦 愛知商 0-2	同			
		準決勝 関学中 4-2	同			
昭4年	6回	1回戦 関学中 1-6	同	15回	2回戦 諏訪蚕糸 0-1	大塚英一
		準々決勝 愛知一中 5-2	同		準々決勝 海草中 6-3	同
昭8年	10回	1回戦 台北中 4-6	同			
		2回戦 享栄中 11-10	同			
昭14年	16回	2回戦 平安中 5-3	同	25回	2回戦 山形中 2-9	大塚英一
					準々決勝 島田商 2-1	同
昭15年	17回	1回戦 海南中 1-2	大塚英一			
		2回戦 愛知商 2-3	同			
		準々決勝 東邦商 8-10	同			
昭16年		野球休止				
昭17年					文部省主催国民体育振興大会	
		昭18年~20年まで 野球休止				
昭21年		野球復活				
昭29年				36回	2回戦 静岡商 4-3	若宮誠一
昭30年	27回	1回戦 若狭高 5-3	若宮誠一			
昭31年	28回	1回戦 浜松商 5-2	同			
昭32年	29回	1回戦 愛知商 0-3	同			
		2回戦 甲府工 0-6	同			
		準々決勝 倉敷工 4-0	同			
昭33年				40回	1回戦 大宮 1-4	若宮誠一
					2回戦 桜ヶ丘 0-4	同
					3回戦 水戸商 0-1	同
					準々決勝 作新学院 2-1	同
昭34年	31回	2回戦 天理 1-2	若宮誠一			
昭34年		準々決勝 南山 1-0	同			
昭35年	32回	2回戦 平安 1-4	同			
		準々決勝 滝川 0-2	同			
		準決勝戦 北海 0-2	同			
		優勝 決勝戦 米子東 1-2	同			
昭36年	33回	2回戦 作新学院 0-2	同			
		準々決勝 東邦 1-4	同			
		準決勝戦 米子東 1-4	同			
		準優勝 決勝戦 法政二 4-0	同			
昭38年	35回	2回戦 市神港 9-1	同			
昭40年	37回	2回戦 米子東 0-4	前川昌三	47回	1回戦 三池工 2-1	前川昌三
		準々決勝 PL学園 2-5	同			
		準決勝戦 市和商 3-1	同			
昭43年				50回	2回戦 小山 1-2	岡田紀明
					3回戦 静岡商 14-0	同
昭45年	42回	1回戦 富山商 2-1	久保正道	52回	1回戦 静岡 0-16	久保正道
					2回戦 広島商 0-1	同
					準々決勝 熊谷商 0-17	同
					準決勝 PL学園 16-5	同
昭48年	45回	1回戦 向陽 0-2	久保正道	55回	1回戦 取手一 1-2	同
		2回戦 鳴門工 5-1	同		2回戦 京都商 0-1	同
					3回戦 銚子商 4-3	同
昭51年	48回	1回戦 崇徳 11-8	若宮誠一	58回	2回戦 銚子商 5-3	若宮誠一
昭52年				59回	2回戦 東邦 6-2	久保正道
昭53年	50回	1回戦 浪商 0-3	久保正道			
		2回戦 東北 5-3	同	60回	1回戦 仙台育英 1-0	久保正道
昭54年	51回	1回戦 府中東 0-8	同			
		2回戦 倉吉北 7-4	同	61回	1回戦 明野 5-4	久保正道
昭55年				62回	1回戦 横浜 8-1	同
昭56年	53回	1回戦 北海道日大 2-3	若宮誠一			
		2回戦 尾道 1-4	同			
		準々決勝 倉吉北 2-1	同			
昭57年					高松市中央球場閉鎖。生島に県立運動公園内に球場が設立。公式戦はここで開催。	
昭58年				65回	1回戦 宇都宮南 2-1	若宮誠一
平2年	62回	1回戦 鳥取西 1-4	岡田紀明			
		2回戦 天理 2-8	同			
		3回戦 新田 4-0	同			
平8年	68回	1回戦 国士館 4-2	宮武学	78回	2回戦 浦和学園 4-9	宮武学
					3回戦 熊本工 5-1	同